

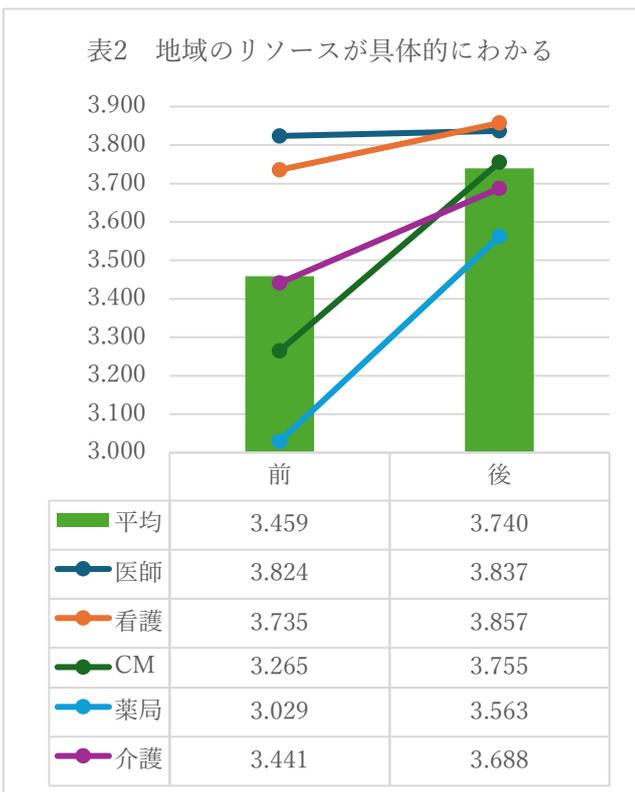
10月14日に約6年ぶりとなる市民フォーラムが開催されました。約100名の医療・介護・福祉・行政の専門職にご協力いただき無事終了することができました。大変感謝しております。

この市民フォーラムは市民への啓蒙だけではなく、専門職が連携を深め、「顔の見える」関係を築くことを目的としています。それが達成できているか、市民フォーラムの前後でアンケートを実施しました。アンケートは阿部 理らが開発した「医療介護福祉の地域連携尺度」を用いています。詳細はこれから検討予定ですが、今回は2つの項目を簡単に報告いたします。

(アンケート回答者 前：34名 後：50名)

①地域の関係者の名前と顔・考え方がわかる

目的が達成できているかどうかの直接的な評価項目となります。一目瞭然、すべての項目において評価が上がっています。どの項目も満遍なく上がっていますが、一番上昇が多かったのは「性格」です。顔の見える関係だけでなく、腹の見える関係に近づけるかもしれません。ちなみに、全国10か所のケア・カフェ®4回での上昇量は2.67⇒3.01と0.32²⁾であり、劇での上昇量は0.53とだいぶ大きいです。9回の練習にさらに本番と打ち上げがあったので回数はだいぶ多いですが…。



②地域のリソースが具体的にわかる

地域の訪問対応できる専門職がわかるかという評価になります。職種間にばらつきがあり、面白かったので報告いたします。医師・看護師については前後であまり大きな変化は見られず、ケアマネジャー (CM)、薬局、介護では大きな上昇が見られました。医師、看護師はもともとが高かったためあまり上昇がみられなかったのかもしれませんが。ケア・カフェ®のデータと比べてみると 3.42⇒3.53 で上昇量は0.12²⁾ですので劇の上昇量0.28はこちらもだいぶ大きいです。どこの薬局が在宅対応できるかあまり知られていなかったことも驚きですが…。たくさんの薬剤師の活躍により大幅上昇しました！(それでもまだ一番低い…)

動画も公開していますのでぜひご覧ください。「エナガチャンネル」で検索かQRコードご利用ください。あの日の感動をもう一度…。



文献

- 1)阿部泰之他.「医療介護福祉の地域連携尺度」の開発. Palliative Care Res 2013; 8: 116-26
- 2)阿部泰之他.ケア・カフェ®が地域連携に与える影響—混合研究法を用いて— Palliative Care Res 2015; 10(1): 134-40